

令和4年度第2次補正
探究的学習関連サービス等利活用促進事業費補助金

探究的な学び支援 補助金2023

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社メディア・ファイブ

【サービス名称】

探究学習ソフトウェア

【サービスの機能分類】

区分A-1 メインサービス

2024年1月



ラーニングスケルトンAIの特徴

楽しく学ぶ Learning

ドリルのコンテンツが豊富なので低学力層のお子さんでも楽しく学習することができます。

※コンテンツは新学習指導要領に対応しています

豊富なコンテンツ
楽しく学力を伸ばす

ドリル学習
ゲーム学習

思考を育てる Skeleton

コネクトシートを使って、自分の考えをまとめ、チーム機能で意見を交換することができます。

考えをまとめる
他の人の考えも確認

コネクトシート
チーム機能

AIがサポート AI

より効率よく学習するためにAIが学習の進捗状況に合わせて計画を立てます。AI探求は調べ学習に最適！コネクトシートやドリルの内容に合わせてWEBサイトを表示してくれます。

学習をナビゲート
関連用語を表示

AI学習計画
AI探求

すぐに授業で活用できる！

新学習指導要領（新教書）完全対応

教材テンプレート
教科書に対応した教材テンプレートで0秒で授業の準備ができます！

使用したいテンプレートを選択

問いかけテンプレート
教科書に対応した問いかけテンプレートで5分で思い通りの教材を作れます！

使用したいテンプレートを選択

3つの特徴

個に応じた指導！

目指せ遅滞者ゼロ！ゲーム教材・AI 独習

探究学習を AI が支援！

主体的・対話的・深い学びを AI がサポート

AI 共究とはシートに描いた内容を、より深く調べるために、必要な項目を AI が判断して表示させます！小学生から社会につながる授業・学習ができます！

AI 共究
関連用語を表示

インターネットですぐに検索できる

遅滞者対策は学校現場で最も深刻な問題です

学習遅滞者発生率
—82年
—02年

小学6年で20%の児童が算数についていけません。現場の先生の8割はクラスの学力差を悩んでいます！

レベルアップ問題
レベルダウン問題
成績によって最適な問題を出題。

学習をナビゲート
AI 独習でスケジュール管理

◎教育系サービスとしてはいち早くChat GPTを搭載し、学習、教職員業務支援に有効活用いただけます

【サービスツールの内容】

<中学校向け基本パッケージ>

- ・基本システム（コネクトシート、ドリル、ドリル編集、AI探究（Chat GPT3.5含む）等）
- ・サポート（マニュアル提供、導入時研修、導入後研修・サポート、ツール保守等）
- ・コンテンツ（主要科目及び英検等 計13科目）

<高等学校向け基本パッケージ>

- ・基本システム（コネクトシート、ドリル、ドリル編集、AI探究（Chat GPT3.5含む）等）
- ・サポート（マニュアル提供、導入時研修、導入後研修・サポート、ツール保守等）
- ・コンテンツ（主要科目及び英検、TOEIC、情報系コンテンツ等 計30科目）

<その他>

- ・AI英会話、AI英作文、AIドリル作成ツール（Chat GPT4.0含む）、高校情報ⅠⅡ演習問題作成ツール 等

【生徒・教職員が抱える課題】

- ・探究学習における課題としては、生徒個人個人の能力や意欲が異なるため、どのような方法で探究学習を行うか、の設定が非常に難しいと感じている
- ・能力ということでは、生徒個人個人の情報リテラシーも異なるため、個別目標の設定が重要である
- ・テーマ設定において、「単なる事実の調べ学習」に留まらないものにしたいと思っているが、マンネリ化傾向にあると感じている
- ・日々の業務に追われ新しい取り組みや試みをする余裕がなく、前年度の流れを踏襲している状況である

【課題解決のためにサービスが果たす役割】

- ・ラーニングスケルトンAIは、キーボード入力やスライドの作成など、タブレット（PC）の操作能力を高めるために有効であり、また、関連サイトやChat GPTでの検索を通じて情報の分析、要約、プロンプト（指示）能力の向上に寄与するサービスツールです
- 生徒の探究学習における課題解決はもちろん、教職員の業務効率化にも貢献できます

【活用場面とその効果】

- ・ 就職活動にあたっての志望動機を、実習経験に基づいて作成するという場面
- ・ まず箇条書きでまとめ、「自分自身が成長できること」などを条件に、AI探究機能で例文を表示した
- ・ 表示にあたっては、中学生、高校生でもわかりやすく、と条件を追加した
- ・ AI探究によって生成された例文を授業の冒頭でみせたため、生徒が取り組みやすくなった
- ・ AIが生成した文章が、生徒の考えと若干違うものであったため、それによって逆に、自分が言いたいことはこういうことだったと教員に説明をして明確にできた、という場面があった
- ・ 長文を書くことが苦手な生徒でも、箇条書きにしてAIを使い、生成されたものを手直ししたりすれば長文を完成できる、という成功体験が生まれた



【本事業においてサービスを導入した実績】

<学校等教育機関>

県立中学校様 2校

私立中学校様 3校

都立、道立、県立高等学校様 . . . 18校

私立高等学校様 5校

国立高等学校様 1校

県立特別支援学校様 1校

計 30校

<学校等設置者>

都、道、県教育委員会様 8団体（上記都道県立中・高・特別支援学校含む）

【活用による成果】

<教職員>

- ・授業が自習になる際や家庭学習の一環としてドリル教材を活用した。使い勝手が良く、演習が少しずつできるので、隙間時間での利用を推進している
- ・（今回、導入時期の都合でご利用はいただけませんでした。自動問題作成ツールの活用により、テストなどの問題作成に要する時間の短縮が図れます）

<生徒>

- ・ラーニングスケルトンAI上のAI機能について、生成AIの作った内容を通じて、自分の考えや意見のまとめや、長文の作成が簡単にできた
- ・調べの場面において、AI探究機能を活用し、検索する時間が短縮できた

【課題と、⇒改善策】

- ・コネクトシート機能を使用する際に画面上に表示されるタブの名称が全てコネクトシート、になっているため複数のタブを開いているとわかりづらい
⇒タブの区別がつくように表記を変更するよう開発サイドに改善を要請しております
- ・教師用画面で教材作成をした際、生徒用の表示プレビューがないため、どのようにみえるかが不明である
⇒開発サイドに改善を要請しております
- ・機能が多いため、使いづらい
⇒学校様の活用のご要望に合わせて、画面上での機能の絞り込み等カスタマイズを行っていきたくと考えております
- ・⇒その他、ICTが苦手な教職員様でも簡単に取り組めるよう、（学校様への導入以後）音声認識機能を導入しております

【生徒・教職員の感想】

<生徒>

- ・特に問題なく使用できた
- ・ドリル機能は、間違えた問題のみ抽出して解くことができるのは便利だと感じた

<教職員>

- ・探究学習において、調べる時間は大事だが、調べる作業に時間を費やしてしまうと、主目的であるまとめや考えることが疎かになってしまう懸念があるが、ラーニングスケルトンAI上のChat GPT機能は使用に慣れが必要ではあるものの、通常に比べて短時間で、かつ詳しく調べるためには有効な機能であると感じた
- ・Chat GPTは、単独で使用するよりも、ラーニングスケルトンAI機能で使った方が、生成される文章量が短く使いやすく感じた
- ・ドリルは数問のみ、或いは途中から解き始める、などの使い方ができ、隙間時間の自習教材として使い勝手がよい

株式会社メディア・ファイブ

本 社

〒330-0063

埼玉県さいたま市浦和区岸町5丁目14番9号

TEL：048-827-3535 / 048-711-2624

FAX：048-827-3555

代表取締役 北畠 謙太郎

略 歴

1960年埼玉県生まれ、埼玉大学教育学部卒。コナミを経て日本総研 研究事業本部所属研究員として勤務。その間、IT技術、マルチメディア、インターネット、医療システム、学校経営、ナレッジマネジメント等多数のプロジェクトを手がける。1999年「エデュカートリッジ・データ・システム」を考案・開発（米国特許、国内特許取得）。著書に、『明日の事業開発』（共著）、『究極の経営』がある。

設 立 1993年11月 （創業 1992年6月）

資本金 97,000,000円

業務内容

コンピュータソフトウェアの開発・販売、書籍の出版
デザイン・経営コンサルティング・広告代理業・ネットワークサービス

担当窓口 企画事業部 渥美弥栄子

atsumi@media-5.co.jp